

報道関係各位



障害・性・世代・言語・国籍などを越えたパフォーミングアーツの祭典が日本初開催
「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -」
 2019年9月～2020年7月／東京都内にて開催

日本財団（会長 笹川陽平）は、障害・性・世代・言語・国籍などのあらゆる多様性があふれ、皆が支え合う社会を目指し、2019年9月～2020年7月まで、東京都内を中心に、1年間を通して多彩なパフォーミングアーツの演目を展開する「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -」を開催いたします。



超ダイバーシティ芸術祭

50年以上にわたり、国内外で障害者支援に取り組んできた日本財団は、2006年、ラオス、ベトナムで初めて「国際障害者芸術祭」を開催し、その後アジア各地で展開。2018年、シンガポールにて、「アジア太平洋障害者芸術祭 True Colours Festival」として、過去最大規模で開催し、約10,000名に鑑賞していただきました。2020年にかけて日本で初めて開催する「超ダイバーシティ芸術祭」では、“障害者芸術”に限定せず、障害・性・世代・言語・国籍などを越え、皆がともに力を合わせてつくる芸術祭を目指します。

1年間を通じて、ダンス・ミュージカル・音楽ライブ・演劇・ファッションショーなど、多彩な身体表現によるシリーズ「True Colors パフォーミングアーツ」を展開するほか、各演目でお客様のアクセシビリティを高めるための支援を行うボランティア・プログラム、「True Colors アテンダント」、次世代のダイバーシティに関わる人材育成を目指す「True Colors アカデミー」を開講。さまざまなアプローチで学びを深めながら、2020年7月、集大成となる「True Colors コンサート」を開催いたします。

アートを通して色々な個性が出会う場に参加することで、より多くの気づきが生まれます。「True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -」は、2020年に向けて、世界から注目を集める東京で、ダイバーシティ&インクルージョンの実現を目指し、新しい価値観が生まれる機会を創出していきます。

<リリースに関する問い合わせ先>

True Colors PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内） 担当：高良（たから）、浅野、杉本
 TEL: 03-6894-3201 / FAX: 03-5413-3051 / tcf@ssu.co.jp

<事業に関するお問い合わせ先>

日本財団 特定事業部 True Colors チーム 青木
 〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル
 TEL: 03-6229-5137 / FAX: 03-6229-5130 / E-mail: t_aoki@ps.nippon-foundation.or.jp

【開催概要】

名 称：True Colors Festival - 超ダイバーシティ芸術祭 -

期 間：2019年9月～2020年7月

会 場：渋谷ストリーム、代々木公園、Hareza 池袋、(仮)有明ホールほか

主 催：日本財団

共 催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (DITA)

特別協賛：東急グループ

協 賛：Facebook、Twitter Japan 株式会社、CINRA.NET、タイムアウト東京、SHIBUYA QWS

後 援：渋谷区、一般財団法人 渋谷区観光協会、カナダ大使館、アルゼンチン共和国大使館

協 力：100BANCH

公式サイト：<https://truecolors2020.jp>

【ロゴデザイン】



デザイナー 服部 一成氏のコメント

「超ダイバーシティ芸術祭を象徴する、多様なかたちの文字の集合によるロゴです。文字のアウトラインは閉じずに開いていて、様々な色で塗られることでロゴができあがっています。丸いもの、直線的なもの、アンバランスなものなど、個性的な文字が並び、フェスティバルを彩ります」

服部 一成 (はっとり かずなり) プロフィール

グラフィックデザイナー。1964年東京生まれ。1988年東京芸術大学美術学部デザイン科卒。ライトパブリシティを経てフリーランス。主な仕事に「キューピーハーフ」の広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、エルメス「petit h のオブジェたち」の会場デザイン、「三菱一号館美術館」「新潟市美術館」のVI計画、POLAの新VIシステム、ロックバンド「くるり」のアートワークなど。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、ADC賞、東京TDCグランプリなどを受賞。



【実施内容】

True Colors パフォーミングアーツ

2019年9月～2020年7月まで、ダンス・ミュージカル・音楽ライブ・演劇・ファッションショーなど、さまざまな身体表現によるシリーズ「True Colors パフォーミングアーツ」を東京都内の各所で展開し、2020年7月の2日間、(仮)有明ホールにて、フィナーレとなる「True Colors コンサート」を開催いたします。また、一部プログラムでは、参加型ワークショップやオーディションなどを行い、アーティストとの出会いや参加者同士の交流の機会をつくり、パフォーマンスの鑑賞から一歩踏み込んだ体験を提供します。



True Colors アテンダント

障害のある人もない人も、誰もが楽しむことのできる場づくりを目指し、2020年7月の「True Colors コンサート」までの約1年間、アクセシビリティを高める環境をつくる支援をしていただけるボランティア、「True Colors アテンダント」を募集します。専門的なレクチャーや実践的な研修を経て、実際の公演運営に関わっていただきながら、各シリーズで継続的に経験を積み重ねます。「ダイバーシティ」の現状を理解し、来場者の悩みや困っていることに耳を傾け、実践しながら学べる場を提供します。※応募締切は、2019年9月13日(金)まで。詳細および応募方法は、公式サイト(<https://truecolors2020.jp/truecolorsattendant/>)をご覧ください。



True Colors アカデミー

本芸術祭の一環として、次世代のダイバーシティを推進する人材の育成を目指し、「True Colors アカデミー」を開講します。日常に潜む“違和感”をテーマに、各分野で活躍する様々なゲストを招へいし対話やワークショップを通じて思索していく「STUDY TOUR (公開講座)」と、実践的にリサーチやプロトタイプ制作を通じて違和感をを紐解いていく「SESSION (公募制)」のプログラムを実施します。2つのプログラムを通じて普段とは異なる視点を獲得し、社会課題や個人的な違和感の解決方法を模索していきます。



WEAR YOUR True Colors プロジェクト

多様なメッセージをTシャツにするプロジェクト。第一弾では、ミュージシャン、アーティスト、デザイナー、編集者など、立場も考え方も多様なクリエイターの方々にご参加いただきます。「True Colors DANCE」および「True Colors BEATS」などのイベント会場で販売を行うほか、アテンダントの皆様にはプレゼントします。また、第二弾では、一般公募企画として、メッセージやデザインを募り、アワードを実施します。受賞デザインは商品化を予定しています。

※超ダイバーシティ芸術祭の収入について

超ダイバーシティ芸術祭では、「誰も孤立することなく皆が支え合う社会」の実現を目指し、本芸術祭終了後も、期間中のチケット売上およびオフィシャルグッズ売上の全額を活用し、多様性をテーマとした芸術事業に取り組みます。さまざまな障害に向き合いながら表現を追求するアーティストや、障害、性、人種などへの偏見から自由になるための表現を追求するアーティスト同士がつながり合い、研鑽し合う活動や機会を生み出していきます。

【アクセシビリティ・ポリシー】

超ダイバーシティ芸術祭では、誰もが参加しやすいフェスティバル環境を目指し、さまざまな工夫や取り組みを行います。各イベント会場では、手話通訳や字幕サービスなどの情報保障のほか、多様な背景や個性のある人に居心地のよい会場づくりを心がけます。また、公演情報や会場までのアクセス方法をよりわかりやすく入手いただけるよう、公式サイトをはじめとする情報のアクセシビリティを高めます。

1. 「ゆずりあいゾーン/シート」の設置

各演目では、車椅子や足の不自由な方、補助犬をお連れの方、小さなお子様連れの方などがご利用いただける「ゆずりあいゾーン/シート」をご用意します。

※ゆずりあいゾーン/シートの内容は演目によって異なりますので、詳細は事務局までお問合せください。

2. 手話通訳、字幕サービス、音声ガイド、英語対応等、舞台鑑賞上の情報保障の取り組み

演目によって、聴覚障害者のための手話通訳や字幕サービス、視覚障害者のための音声ガイド、日英によるMCや字幕サービス提供など、さまざまな人が演目を楽しめる工夫を試みます。

3. 子どもから大人まで楽しめるプログラムの設計

1年間を通じた演目のなかで、お子様から大人まで楽しめるイベントを幅広く展開していきます。演目によって、ベビーカーのお預かり、託児サービスの設置等も行い、子育て中の方々にもご参加いただける工夫を行います。

4. 会場までのルート案内の充実

車椅子をご利用の方、視覚障害者が利用しやすい会場までのアクセスルートを公式サイトに掲載します。また、多機能トイレやゆずりあいゾーン/シート等が会場周辺のどこにあるかを明記した会場マップをご用意します。

5. 広報物のユニバーサルデザイン・チェック

本芸術祭のポスター、チラシの一部では、専門会社によるユニバーサルデザイン監修を取り入れます。視覚障害者の方にとって見やすい広報物の制作や、車椅子をご利用の方にとって閲覧しやすいポスター掲示等を心がけます。

6. 点字チラシ・プログラムの配布

ご希望の方には、本芸術祭で発行するチラシ・プログラム等の点字翻訳した印刷物をご提供します。必要な方は事務局までお問合せください（お問合せからご提供までに2週間程度を要します）。

7. 日本語・英語でのウェブサイト、窓口対応

公式サイトにおける日本語と英語による情報掲載、および、事務局窓口対応（電話・メール）を行います。

8. ウェブサイトの視覚障害者モニターチェック

公式サイトでは、視覚障害者によるモニター監修を行っています。

9. ウェブアクセシビリティ規格「JIS X 8341-3:2016」への対応

より多くの方にとってウェブ情報のアクセスを可能にするため、「JIS X 8341-3:2016」の方針に従い、レベルAAに準拠することを目標とし、継続的に公式サイトのウェブアクセシビリティの向上に取り組んでいます。

【アドバイザーパネル】

ジュリア・オルソン（会社員、車椅子利用者、日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 演劇公演「Undesirable Elements-生きづらさを抱える人たちの物語-」出演者）

加藤 悠二（ゲイ・アクティビスト/アーティスト）

杉山 文野（株式会社ニューキャンパス / 東京レインボープライド共同代表）

廣川 麻子（TA-net 理事長/東京大学先端科学技術研究センター熊谷研究室 / 聴覚障害の当事者）

林 建太（視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ代表）

【アンバサダー】



IVAN (アイバン)

1984年、メキシコ生まれ。モデル・タレント。父が日本人とスペイン人のハーフ、母がメキシコ人。日本語・英語・スペイン語の3か国語を話すトリリンガル。メンズモデルとして、パリコレを始め、様々なファッションシーンで活躍。2014年、日本テレビ『有吉反省会』をきっかけに大ブレイク。モデル・タレントとしてテレビ・ラジオなど活躍の幅を広げている。



乙武 洋匡 (おとたけ ひろただ)

1976年、東京都生まれ。先天性四肢欠損により、幼少期より電動車椅子で生活。早稲田大学在学中に出版した『五体不満足』（講談社）は累計600万部を超えるベストセラーに。卒業後はスポーツライター、小学校教諭、東京都教育委員として活躍。海外渡航経験は約80カ国。現在は最先端の義足で歩行するプロジェクトに取り組んでいる。主な著書に、『だいたいようぶ3組』『車輪の上』（ともに講談社）、『オトことば。』（文藝春秋）など。



ラブリ

1989年11月27日生まれ。モデル・タレント・アーティスト。自身の中から生まれる言葉を詩や写真にし、アーティストとしても表現の幅を広げている。2018年6月より、フィリピン観光大使に就任し、日本との架け橋として活動中。自身が編集長を務めるメールマガジン【KILIG】では、ファンの方々との企画を数々実施している。



RYUCHELL (りゅうちえる)

1995年9月29日、沖縄県生まれ。タレント・アーティスト。

「普通」の男の子像からはみ出している自分に、生きづらさを感じていた学生時代。高校卒業後、どんな個性も受け止めてくれる街「原宿」に上京し、ありのままの自分を表現していくことを決意。テレビのバラエティ番組出演をきっかけに、奔放なキャラクターで全国区のタレントに。2018年2月、「自分の色を取り戻そう」をテーマに、音楽活動を本格始動。2018年7月には愛妻ペこととの間に長男が誕生し、協力しあって育児をする姿に「理想の家族像」として多くの共感を集めている。同年9月には渋谷区より「渋谷ダイバーシティエバンジェリスト」に任命される。2019年4月10日デビューアルバム「SUPER CANDY BOY」をリリース。

【True Colors Festival 開催経緯】

True Colors Festival の原型となったのは、日本財団が海外における障害者支援活動の一環として行ってきた「国際障害者芸術祭」です。

アジアでは文化的な背景もあり、障害者は慈悲や支援の対象として見られることが多く、人々の前に出る機会も限られている状況がありました。一方で、障害がありながらも、表現者としてパフォーマンスの技術を磨いている人たちがいることも分かってきました。そのような中で、障害のあるアーティストにステージ上で表現をする機会をつくり、障害者やその家族も含む多くの人に鑑賞してもらうことで、障害に対する意識の変化や自立に向けた後押しをすることを目的に行われました。



2006年、ラオス・ベトナムで「障害者芸術祭」を初開催。2008年にカンボジア、2013～2015年にミャンマーで開催し、2017年にはタイで「障害者太鼓祭」を開催しました。

そして2018年3月シンガポールにてUNESCOとの共催で開催したアジア太平洋芸術祭は過去最大規模のものになりました。3日間の会期中に22カ国100名以上の障害のあるアーティストがステージに立ち、シンガポール大統領や教育大臣を含む約10,000名の方に鑑賞いただきました。その中で、異なる国の多様な障害のあるアーティスト同士がさまざまなコラボレーションをただけでなく、障害のないアーティストとの共演も試みられました。

10年以上をかけて各地で国際障害者芸術祭を展開してきた中で、いくつかの気づきがありました。それは、表現者と鑑賞者が空間を共にして「出会う」ことができるパフォーマンスは、表現をする側にも鑑賞をする側にも深い体験をもたらし、意識や視点の変化を促す可能性があるということ。そして、ステージ上では、障害・性・世代・言語・国籍など多様な個人のちがいを超えたコラボレーションが可能であり、それによって人の心に届く卓越した表現を生み出すことができるのではないか、ということです。

これから2020年の夏に向けて展開するTrue Colors Festivalは、以上の気づきをもとに、「障害」という看板を下ろし、多様な個性と背景を持つ人たちが共につくる「超ダイバーシティ芸術祭」として初めて開催する取り組みです。障害の有無、多様な性的指向・性自認・性表現のあり方、国籍、言語、世代などを横断して、さまざまな人がその人らしい色合いを出しながら共に生きる社会の可能性を発信するため、この取り組みを実施いたします。

これまでの開催実績

2006年	ラオス、ベトナムで「障害者芸術祭」開催
2008年	カンボジアで「障害者芸術祭」開催
2013-2015年	ミャンマーで「ASEAN 障害者芸術祭」開催
2018年	シンガポールで「アジア太平洋障害者芸術祭 True Colours Festival」開催

<リリースに関する問い合わせ先>

True Colors PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内） 担当：高良（たから）・浅野、杉本
TEL: 03-6894-3201 / FAX: 03-5413-3051 / tcf@ssu.co.jp

<事業に関するお問い合わせ先>

日本財団 特定事業部 True Colors チーム 青木
〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル
TEL: 03-6229-5137 / FAX: 03-6229-5130 / E-mail: t_aoki@ps.nippon-foundation.or.jp